

「災害の怖さを伝えたい」

岡山の交流にと企画した。台野さんには、人前で震災について話す初めての経験だ。

台野さんは「僕は被災者の中では幸せな方だったと思う」と話す。

遠い岡山県だが「好奇心もあった」という。「家族の中でも格差があつて、僕だけが津波を見なかった。こんな自分が話しても、と思うことはあります」。だが、必ず伝えようと思つていふことがある。

「岡山では、詳しい被災地の様子を知らない人も多いと思う。伊予灘地震も起きたばかり。大災害は現実起きるんだと伝えたい」

◇

「絆コンサート&フォーラム」は午後2時から、北区奉還町のオルガホールで。台野さんやボランティア経験者による発表のあと、午後3時半から就実高吹奏楽部などによるコンサートがある。

23日のフォーラムは、東北に拠点を置き、復興支援を続けるNGO「AMDA」（北区伊福町3）が、東北と

岩手県大槌町出身で東日本大震災に被災し、2012年から高梁市の順正高等看護福祉専門学校で看護師になるため勉強している台野仁さん(20)が23日、「絆コンサート&フォーラム」(AMDA主催)で「被災地の今」と題して経験を話す。台野さんは「災害の怖さを伝えたい」と話している。

【五十嵐朋子】

台野さんは同県立釜石高2年生の時、大震災に遭った。避難所となった学校の体育館で10日間過ごした。家族や自宅は無事だったものの、安否を知ったの

は1週間後。町は津波の被害を受けた。看護師を目指したの中心となって感染症予防や高齢者のケアに当

た。順正高等看護福祉専門学校の被災地の学生の授業料を免除する「震災特別入試」を実施すると高校で紹介され、すぐに高梁行きを



「災害の怖さを伝えたい」と話す順正高等看護福祉専門学校の台野仁さん(高梁市伊福町の同校で)

談 験 体 よう 生 活 学 生 護 看

高梁で学ぶに機を被災に 学ぶ 高梁 機を被災に 学ぶ

東日本
大震災

岩手県出身の台野さん